

## 外国人の人権尊重に関する実践事例

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

栃木県

#### ○学校名

掲載しない(学校種：高等学校)

#### ○教育委員会のURL

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/>

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【通常の学級】1学年8学級、2・3学年各7学級、【合計】22学級

#### ○児童生徒数

【全児童生徒数】881人(平成28年11月1日現在)  
(内訳：1年生320人、2年生281人、3年生280人)

#### ○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績(実施年度及び事業の別)

平成26・27年度 栃木県教育委員会指定人権教育研究学校

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【人権教育に関する目標】

(基本目標) 他者とのよりよい関係を築くために、自他の人権を尊重する意識・意欲・態度を育成する

(重点目標) 多文化共生社会の実現に貢献できる生徒を育てる

#### ○人権教育に係る取組一口メモ

総合的な学習の時間やLHRにおける参加体験型学習を通して、自他の人権を尊重する意識・意欲・態度を養う。

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

- 知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面の関連を重視した、各教科及び各校務分掌を統合した年間指導計画の作成と実践
- 基本的人権や個人の尊重など人権一般の基本的知識の習得と、様々な人権課題に関する理解を促す参加体験型学習の指導案作成と実践
- 生徒・保護者・教員に対する学校評価アンケートの結果や人権教育研究委員会の議論を通じた検証と改善策の提示

### 3. 実践事例の内容

#### 《取組の目的》

本校の教育目標にある「他者とのよりよい人間関係を自ら構築しようと努める生徒」を実現するため、これまで、国際交流、国際理解教育等の活動に取り組んできた。平成26・27年度に人権教育研究指定校となったことから、人権教育の視点から従来の取組を深め、グローバルな視点に立ち、他者理解に努め、いじめのないよりよい人間関係を築くことができる資質・能力の育成などを目的として、次のような授業を実践した。

#### ○授業展開1

##### 【テーマ】

他者とのよりよい関係を築くために社会での生き方を考える。  
多文化共生社会の実現を考える。

##### 【目的】

人権問題の中から、特に外国人差別の問題を取り上げ、どうすれば理想の多文化共生社会に近づけるかを考える。

##### 【本時のねらい】

- ・なぜ差別が生まれるかを考える。
- ・中国からの転校生の実話を聞く。
- ・多文化共生社会のためにどうすべきかを理解する。

##### 【準備物】

- ・様々な人権問題のプリント
- ・『『国境』を考える』スピーチ

##### 【指導展開】

#### 1 導入（5分）

授業者から人権に関する話を聴き、これまでのいじめの授業を思い出す。  
本時のねらいを知る。

#### 2 展開1（20分）〈グループ学習〉

ステレオタイプについて国ごとに幾つか挙げ、本当に自分で見たことなのかを問いかける。

自分の心にひそむ偏見に気づき、偏見を持たない人間はいないことや、人間の弱さについて考える。

#### 3 展開2（15分）〈スピーチ〉

生徒のスピーチを聴く。

今後どうすべきかグループで考える。

※スピーチの内容（生徒のスピーチより抜粋）

私は今でもからかわれたり、中国人として文句を言われたりすることがあります。私の髪型をからかう時に中国人だからと言われたり、『中国人ってどうして何でもパクるの？』と私が答えられない質問を私にしてくる人がいたりします。最近はそのようなことには慣れてしまい、適当に受け流すことも覚えましたが、考える度に悲しい気持ちになることには変わりはありません。…

#### 4 まとめ（10分）

今後どうすべきかを再認識する。

## ○授業展開 2

### 【テーマ】

いじめについて考える。

### 【目的】

参加体験型の授業実践により、いじめの予防を強化する。またその中で、外国人に対する差別発言の解消と多文化共生社会の実現のために、外国人の人権についても考える。

### 【本時のねらい】

- ・外国人への差別をはじめ様々な種類のいじめについての理解を深めること
- ・いじめられている人を支援する方策や、人々や、組織を確認すること
- ・いじめに対するさまざまな反応を分析すること

### 【準備物】

- ・「資料1」 ・色紙、はさみ等の文房具 など

### 【指導展開】

#### 1 導入（2分）

いじめに関する次のような質問により、いじめに対する生徒の認識を確認する。

##### ※質問内容

- ・いじめとは何か ・いじめの種類 ・いじめる理由 ・いじめの影響

#### 2 「支援の手」作成（2分）

「支援の手」に自分がいじめられたときには助けを求められることができると思う人物を書く。

#### 3 いじめの場面（20分） ※資料1 次項参照

資料1にあるいじめの場面において、自分はどうのように行動するかを4つの選択肢から選び、なぜその行動を選んだのか、その行動にはどのような長所や短所があるかについて発表する。

3～5つのいじめの場面について同様に活動する。

#### 4 報告と評価（24分）

次のような質問により、活動の振り返りを行う。

##### ※質問内容

- ・この活動の感想 ・被害者が求められる支援
- ・人がいじめる理由とその正当性
- ・他の人をいじめる権利を持つ人はいるか。いるとすれば、それはなぜか。いないとすれば、それはなぜか。
- ・いじめられている人はどんな人権が侵害されている可能性があるか。
- ・いじめが無くなれば、人権環境はどのように改善されるか。

#### 5 終わりに（2分）

「支援の手」を見て、手のひらの部分にふりかえりを書く。また、自分がいじめられたときには助けを求められることができると思う人物を再度書き足す。

資料1

① クラスメイトたちがあなたの悪口を言い、ライン外しをしたり、無視したりするようになりました。こんなことをされるととても辛い気持ちになります。あなたはどうすべきでしょう？

- 1 何もしない。そんなことをされるのは、自分が何か悪いことをしたからに違いない。
- 2 こちらもその連中の悪口をネットで言いふらし、脅してやる。
- 3 親か先生に事情を話す。
- 4 何か別のことをする。

② あなたのクラスに来た転校生は外国人です。あなたのクラスメイトたちは、差別的な言葉をなげかけ、彼が話す日本語を笑いものにし、故郷へ帰れと言っています。あなたはどうすべきでしょう？

- 1 仲間に加わる。彼はあなたの友人ではないので、心配してやる必要は無い。
- 2 彼に対して差別的なことを言っている人がいる、と先生に伝える。
- 3 彼が学校になじめるよう日本語の勉強を手伝うことを申し出る。
- 4 何か別のことをする。

③ 体育が不得意な友人をからかってきましたが、最近、その友人が一人であるようになったことに気づきました。目に涙をためているのを見たこともあります。あなたはどうすべきでしょう？

- 1 何もしない。おそらく気分がすぐれないだけで、自分には関係が無い。
- 2 友人をからかうのをやめて、何故泣いているのか聞く。
- 3 「もうみんなの前ではからかわないけれど、お前は本当にできないからもっと練習すべきだ」と言う。
- 4 何か別のことをする。

④ あなたの彼氏（または彼女）は、誰にも見えない所であなたをぶったり蹴ったりし、誰かに告げ口したり、別れると言ったらもっと痛い目にあわせてやると言います。あなたはどうすべきでしょう？

- 1 親か先生に事情を話す。
- 2 友達に相談する。
- 3 がまんする。
- 4 何か別のことをする。

⑤ あなたの友人の一人が部活で後輩をいじめたりからかったりしているのを見ました。その友人は、後輩からお金や物を取り上げるようにもなりました。あなたはどうすべきでしょう？

- 1 友人には知られないようにして、部長にそのことを知らせる。
- 2 「君がやっていることはまちがっている」とその友人に言う。
- 3 顧問の先生に相談する。
- 4 何か別のことをする。

#### 【授業・掲示作りの活動の様子】



#### 4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

##### 【取組を実施する際に生じた課題】

- クラスの生徒の実体験をもとに授業を実践したため、その生徒が嫌な思いをしないよう、十分な配慮が必要である。
- 他者との関係性の中で、生徒が意見を述べるのが大切であるが、何も言えなくなってしまう生徒がいた。

##### 【課題に対する解決方法】

- その生徒に対して、授業の展開やそこで行う教師の発問などを事前に伝え、保護者に対しては、授業実施について了承を得た。
- 授業を実施した翌日にエンカウンターを行ったり、その生徒と面談をしたりした。
- 多くの生徒が意見を述べられるよう、まとめの活動の中で、個人で活動させた後にグループで話し合わせた。

#### 5. 実践事例の実績、実施による効果

指導展開2について

授業実践の後、自由記述の感想を募ったところ、次のような内容が寄せられた。

##### 【生徒の感想】

- 今回の授業で、改めていじめや人権について踏み込んで考えることができた。
- 授業を受ける前は、実際にいじめを目撃したら、その対応についてみんな自分と同じ意見なのではないかと思っていただけ、実はけっこう違うということに驚いた。
- 友達の意見がとても参考になった。自分の立場もあるので、しなきゃいけないと分かっているけど、なかなか止めに入る勇気が出ないと思う。

### 【教員の感想】

- 生徒はいじめについて思ったよりも「何もしない」という選択をすることが多いのだなと感じました。それを知ることができただけでも教師側の認識が変わったと思います。
- 生徒はよく話をしていました。いじめについて考える良い機会になったと思います。

### 【手法についての教員の感想】

- 今年は指導案が分かりやすく、あとはどう活用していくかは授業者にかかっていると思います。何回か繰り返していくうちに生徒も先生も慣れていくと思います。
- 今までと違ったやり方で、生徒一人一人がよく考えたり動いたりしていたと思います。

これらの内容から、参加体験型の授業実践により、いじめ予防の観点から外国人の人権についても理解を深めたことがうかがえる。今後生徒が自分の言動や行動をいじめや人権侵害の解決者として変容させるという効果が期待できる。

## 6. 実践事例についての評価

平成26・27年度と栃木県教育委員会から研究指定を受け、「他者とのよりよい人間関係を築く人権教育」を研究主題として、様々な活動を通して人権教育の推進に取り組んできた。

今回取り上げた二つの事例のみの結果ではないが、平成27年度末に本校の人権教育の取組に関するアンケートを実施したので掲載する。

### 【設問1】人権に関する理解は深まりましたか。

そう思う・・・・・・・・・・・・・・・・・・486人  
どちらかといえばそう思う・・・・・・295人  
どちらかといえばそう思わない・・・・17人  
そう思わない・・・・・・・・・・・・・・・・・・21人

### 【設問2】他者の痛みや苦しみを考えられるようになりましたか。

そう思う・・・・・・・・・・・・・・・・・・534人  
どちらかといえばそう思う・・・・・・260人  
どちらかといえばそう思わない・・・・14人  
そう思わない・・・・・・・・・・・・・・・・・・11人

### 【設問3】あなたは今の方が以前より、周囲とのつきあいにおいて気配りをする ことができるようになっていきますか。

そう思う・・・・・・・・・・・・・・・・・・468人  
どちらかといえばそう思う・・・・・・309人  
どちらかといえばそう思わない・・・・29人  
そう思わない・・・・・・・・・・・・・・・・・・13人

3つの質問すべてにおいて95%以上の生徒が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えていることから、本校の人権教育の実践により、生徒たちの中に確かに少しずつ、人権に関する知的理解が深まり、人権意識が高まっていることがうかがえる。今後、地道な継続を重ねていきたい。